

FMふたばプロジェクト

～高校生だからできる食で人の繋がりを生むプロジェクト～



福島県立ふたば未来学園高等学校
佐藤 勇樹

きっかけ

お菓子に目を向けず、幼少のころから食べていた甘いだけでなく、うまみのある祖父母が栽培したトウモロコシ。美味しいだけでなく、口の中で心地よい食感が残る**新鮮な野菜**を食べられる幸せがあった。

私が住んでいたのは、現在放射線の影響で立ち入りが制限している双葉郡富岡町。自然に囲まれ、美味しい水で育つ農作物が育つ地区だった。現在は、祖父母の畑も使えなくなり、そうでない土地で作られた米や野菜は、風評被害により見向きもされなくなった。

避難が解除されている広野町のふたば未来学園高校に入学して、双葉郡について学ぶ中で新しい課題を知った。その中には**私たちの将来に関わる課題や全国に共通する課題**がある。

**まだ高校生だから...ではなく、
高校生だからこそ出来ること**



地域循環図から見る現状

データを活用して課題があるかを調べた。

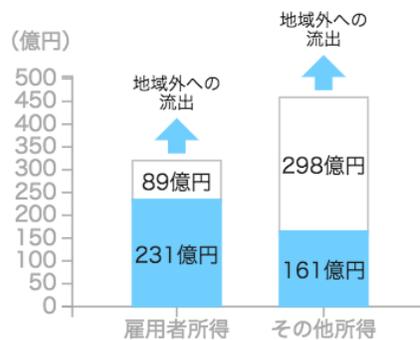
すると、経済循環率は高くなっているが、支出の多くは町外に還元されていることが分かった。

地域経済循環率
198.8%

地域経済循環図 2010年

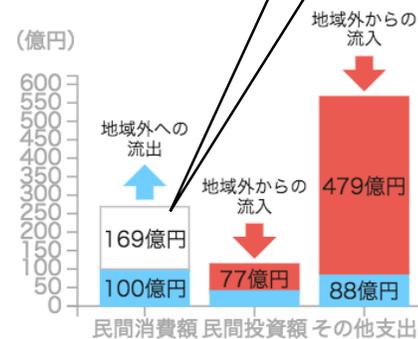
指定地域：福島県広野町

分配（所得）



所得からの支出
392

支出

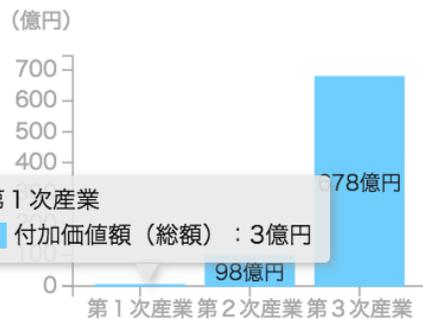


地域外へ
169億円

町外への支出を町内に還元できる仕組みを作ることが大切だと考える。

支出による生産への還流
779

生産（付加価値額）



所得への分配
779

詳細を見る

詳細を見る

第2次産業が98億円
第3次産業が678億円
と高く、
地域経済循環率も198.8%と高い循環率がある。

しかし、第1次産業は3億円と少なくなっている。

広野町が直面する課題

住民 基本台帳	5481 (2011年3月11日)	5006 (2016年11月1日)
震災復興 関係者	0 (H23)	約3000人 (H28)
作付け 農家数	335 (H22)	115 (H27)

うち、広野町に帰還しているのは

約2500人

町内に居住している震災復興関係者は

約3000人

震災
復興
関係者



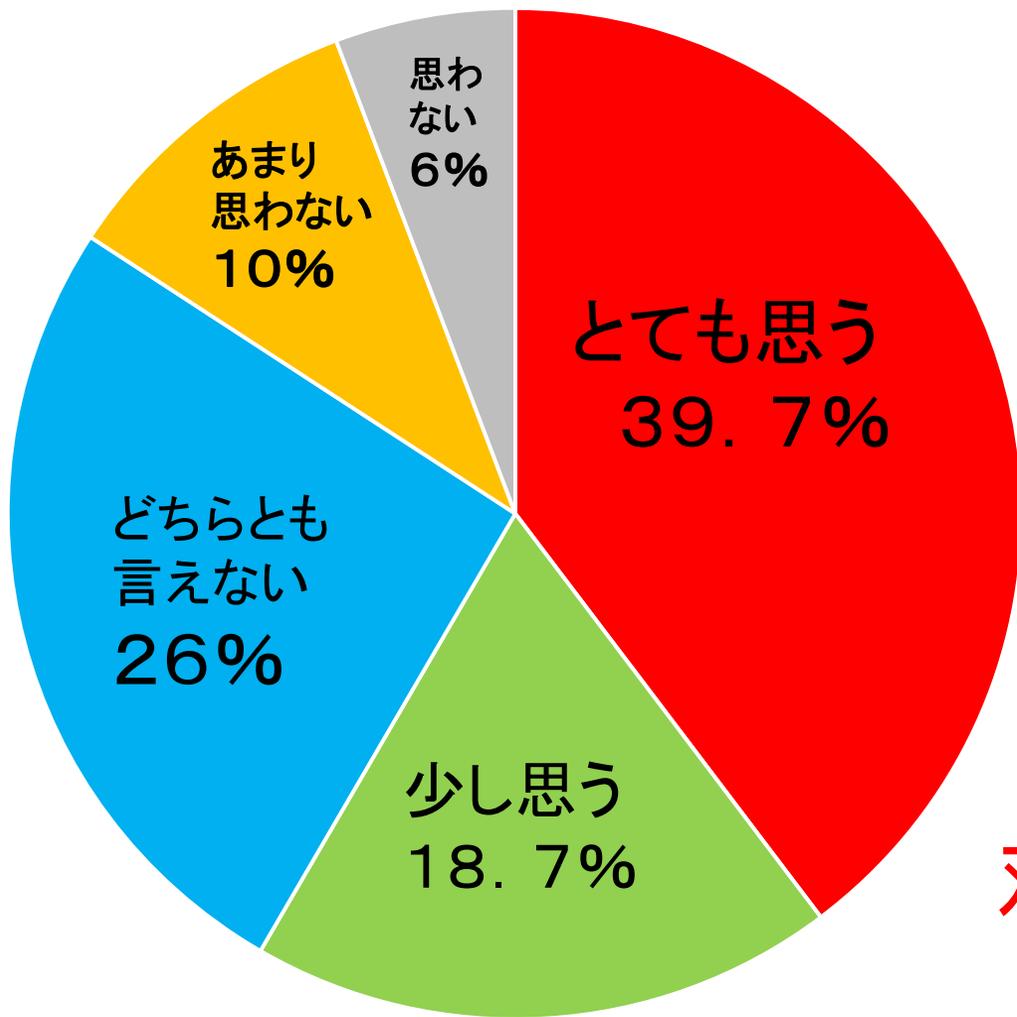
地域コミュニティ

広野
町民

交流による関係づくりが復興に向けて必要不可欠になる。

風評被害

結果



Q.双葉郡の野菜を食べたいと思いますか？

母数・・・209（ふたば未来学園高校生徒）
9月15日配布・9月23日回収

とても思う 83人

少し思う 39人

どちらとも言えない 54人

あまり思わない 21人

思わない 12人

双葉郡で生活している生徒の中にも
不安を持つ人がいる

風評被害によって

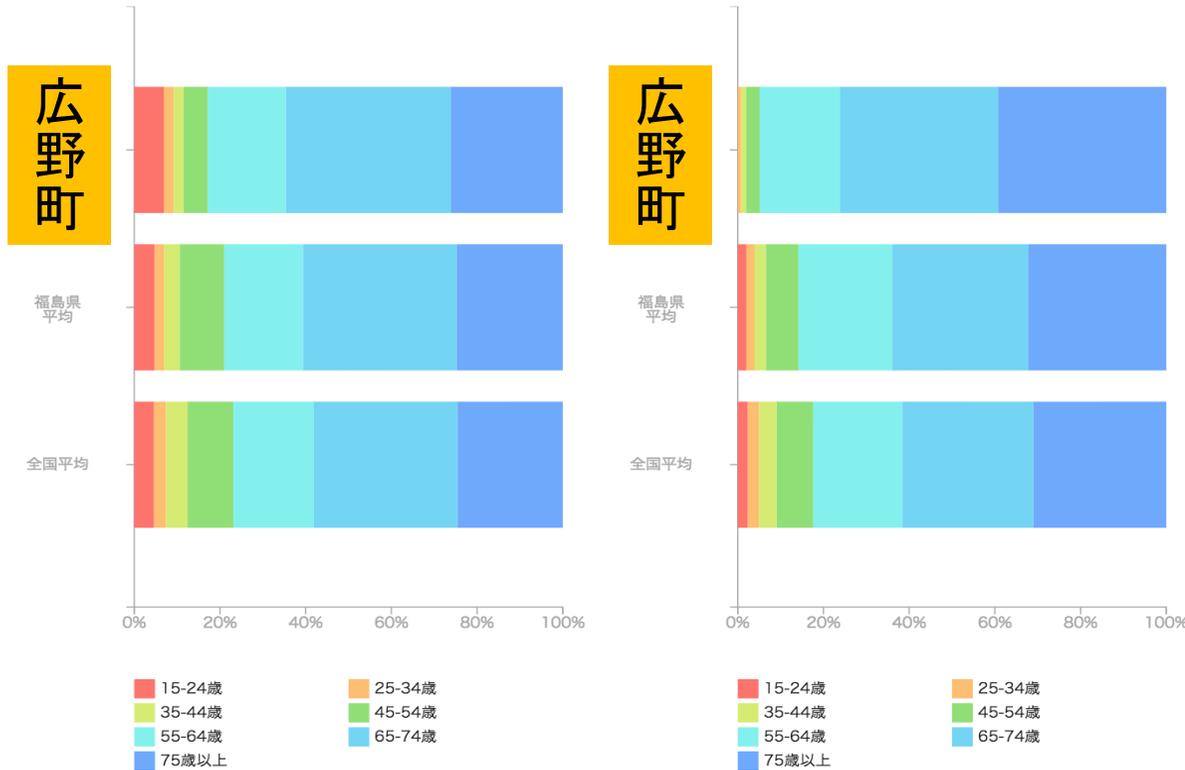
農業就業人口の年齢構成

指定地域：福島県広野町

性別：総数

(RESASより)
2005年

2010年



15~24歳	6.9%	→	0.0%
25~34歳	2.3%	→	0.8%
35~44歳	2.3%	→	1.2%
45~54歳	5.6%	→	3.1%
55~64歳	18.2%	→	18.8%
65~74歳	38.5%	→	36.9%
75歳以上	26.2%	→	39.2%

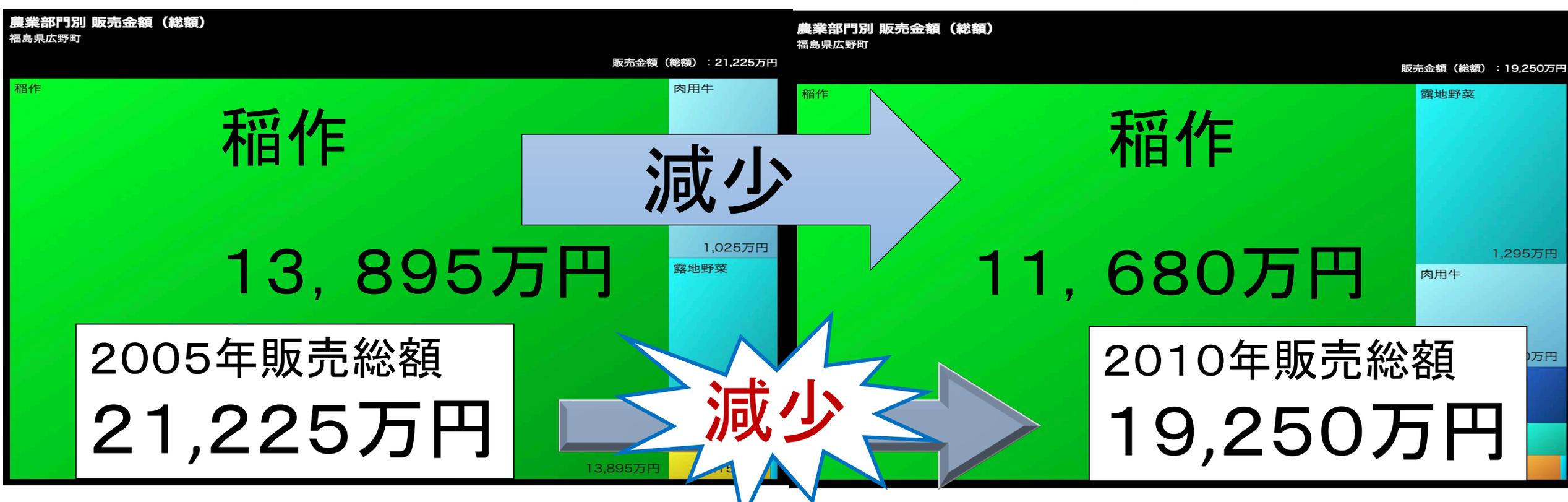
若者の農業就業人口の減少に拍車

風評被害によって

RESAS 農業部門別販売金額

2005年 広野町 農業部門別販売金額

2010年 広野町 農業部門別販売金額



農業の販売総額の減少に拍車

「...まず実践してみよう」

- 学生団体「FMふたばプロジェクト」を設立
- 広野町で農家をしていた方から畑を貸していただき、ひとりで、10月1日から作物の栽培を開始（ほうれん草、いちご、二十日大根や小麦など8種類）
- 今では、仲間が**10人**に！！



目標

高校生という立場から
地域の課題の解決へ挑戦する
風評被害払拭に挑戦する
人と人をつなげる
現状を伝える

2016年10月1日 借りたときの畑



2017年1月3日 3か月後の畑



【こだわり】 栽培方法などをインターネットで調べるのではなく、農家さんから教えてもらうか、**自分たちで考えながら栽培をする**ことで、農業の大変さや難しさを経験する。

3つの課題と、解決のプラン

～ 食で人の繋がりを生むプロジェクト～

1. 経済が地域内で流れていない

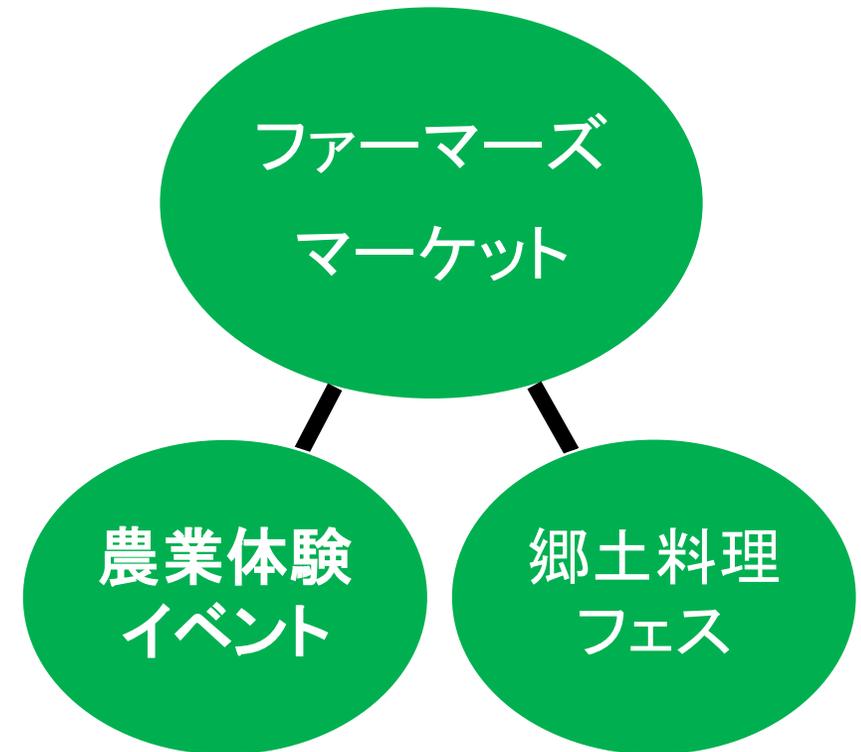
▶ 地域の中でも経済の循環を作る

2. 交流の場がなく、壁が出来ている

▶ 新たなコミュニティが生まれる
交流の場を作る

3. 風評被害が双葉郡内にもある

▶ 双葉郡の野菜を食べてもらう
きっかけを作る



ファーマーズマーケット



消費者

直接売る

生産者

+α 付加価値

新鮮

顔の見える安心感

地産地消

豆知識



私が昨年8月に訪れた、アメリカのファーマーズマーケットでは、幅広い世代の交流と活気があった。私はこのことをきっかけにこのプランを考えました。

生産者が消費者に直接販売をすることで、直接的な交流につながる。さらに、その日にとれた新鮮な野菜を提供することが出来るのも魅力の一つです。

ファーマーズマーケットは3つの課題すべての解決のプランにもなり、課題が解決されたとしても個人ではなく、行政や地域の人々を巻き込むため、持続可能なプランになっています

私はこのファーマーズマーケットを通して、双葉郡の食の安全性と新鮮な野菜の美味しさを知ってもらいたいです。

郷土料理フェスティバル

農業体験イベント

連携

役場、商工会、農家

農家、学生

ターゲット

双葉郡に訪れたことがある、訪れたいと思っている人

農業に関心のある人

解決する課題

風評被害・交流の場がない・
地域外への経済の流れ

交流の場がない
・風評被害

どのように変わるか

双葉郡の新しい産業・
食を通じた地域内外の人の交流・

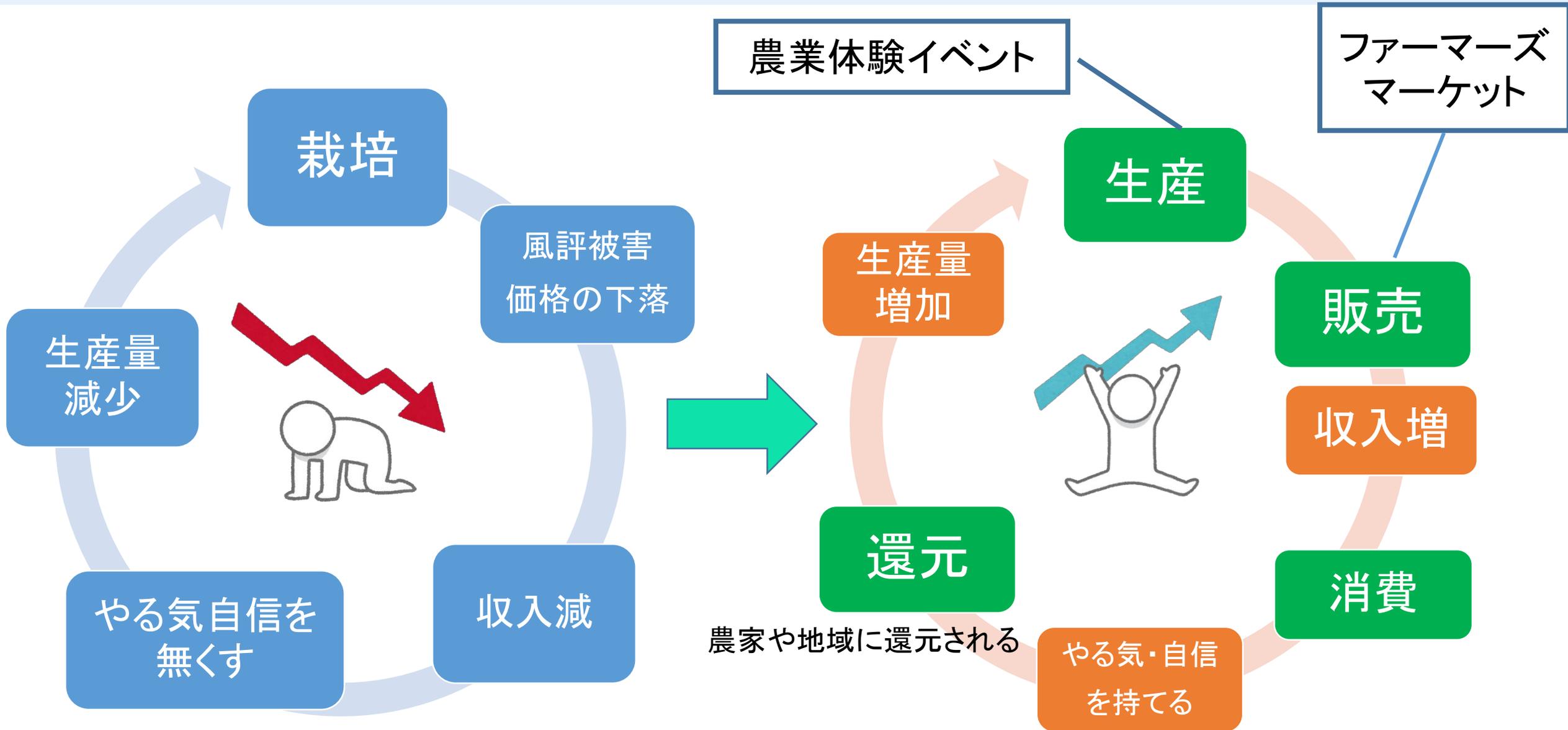
生産する立場を経験することで
農業や農作物への関心

私の込めた思い

郷土料理に込められた地域の歴史
や文化を一緒に知ってほしい

達成感と採れたての野菜の美味しさを味わってほしい

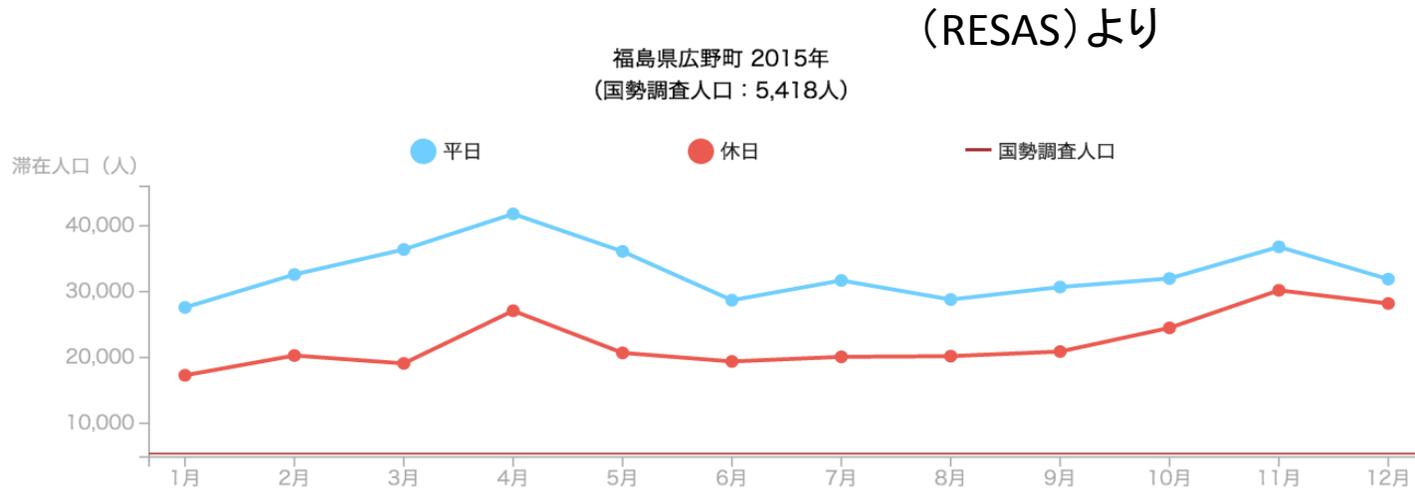
プランにより現状を変える



RESASから読み取る広野町

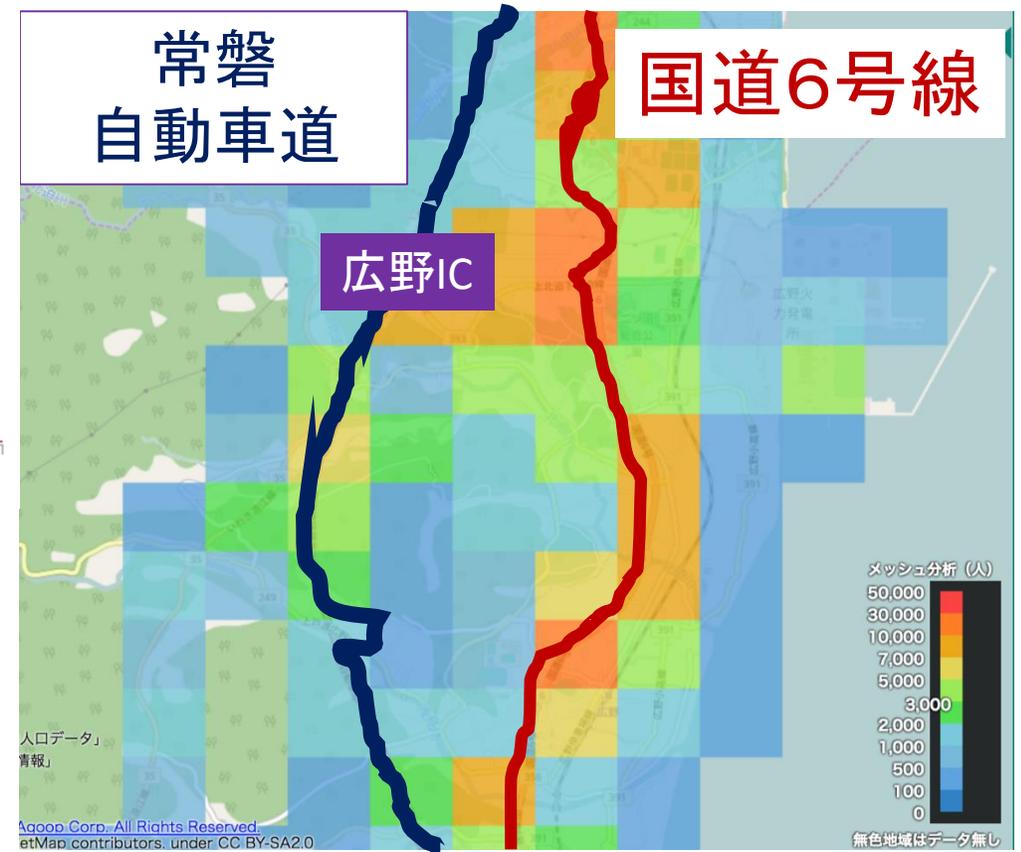
広野町はイベントを起こすために必要な人の流れがある

滞在人口月別推移



広野町は町外からの人の流れが活発であり、多くの人を巻き込むチャンス！

広野町流動人口2015年12月RESASより



今後の予定

- 2017年2月 ほうれん草収穫
商品開発・販売
- 2017年4月～ 農業体験イベントの開催
- 2017年5月 玉ネギ・キャベツ収穫
商品開発
- 2017年9月 ファーマーズマーケット
- 2017年11月 郷土料理フェス

